

霧島山（新燃岳）の火山活動解説資料

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

霧島山（新燃岳）では、22 日の噴火以降噴火の発生はありません。
火山性地震は 23 日 02 時以降、回数は減少しているものの、やや多い状態で推移しています。
新燃岳では、火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）が継続中です。
引き続き、火口周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性があります。火口から 1 km 程度の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。
なお、本資料は、昨日実施した上空からの観測結果を解析したものと、降灰状況について取りまとめたものをお知らせするものです。

○ 新燃岳火口及び火口周辺の状況（図 1、図 2）

昨日（24日）、九州地方整備局及び宮崎県防災救急航空隊の協力を得て行った上空からの観測で確認した新しい火口及び噴気群の位置について、2007年9月12日と比較したのが図1です。

図2には、西側火口縁の外側に新しくできた割れ目付近の状況を示しています。黄色枠は、概ね弾道を描いて飛散する大きな噴石の範囲です。

○ 降灰状況の詳細（図 3）

22 日の噴火による降灰は新燃岳の北東約 10km の小林市や高原町に達しました。

※ 資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』、『25000 分の 1 地図画像』を使用しています（承認番号：平 17 総使、第 503 号）。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区气象台ホームページ(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>)で閲覧することができます。



図1 霧島山（新燃岳）火口内の状況

写真左：2008年8月24日九州地方整備局の協力を得て行った上空からの写真（北東側から撮影）

写真右：2007年9月12日（北東側から撮影）

それぞれの丸の色は同じ場所を示しています。

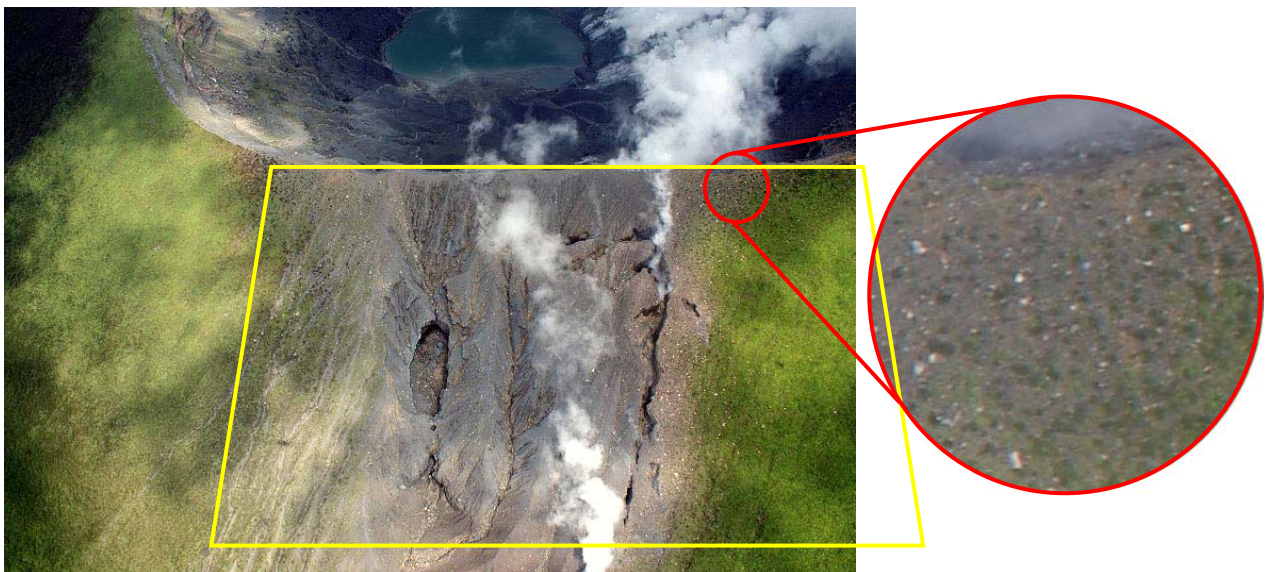
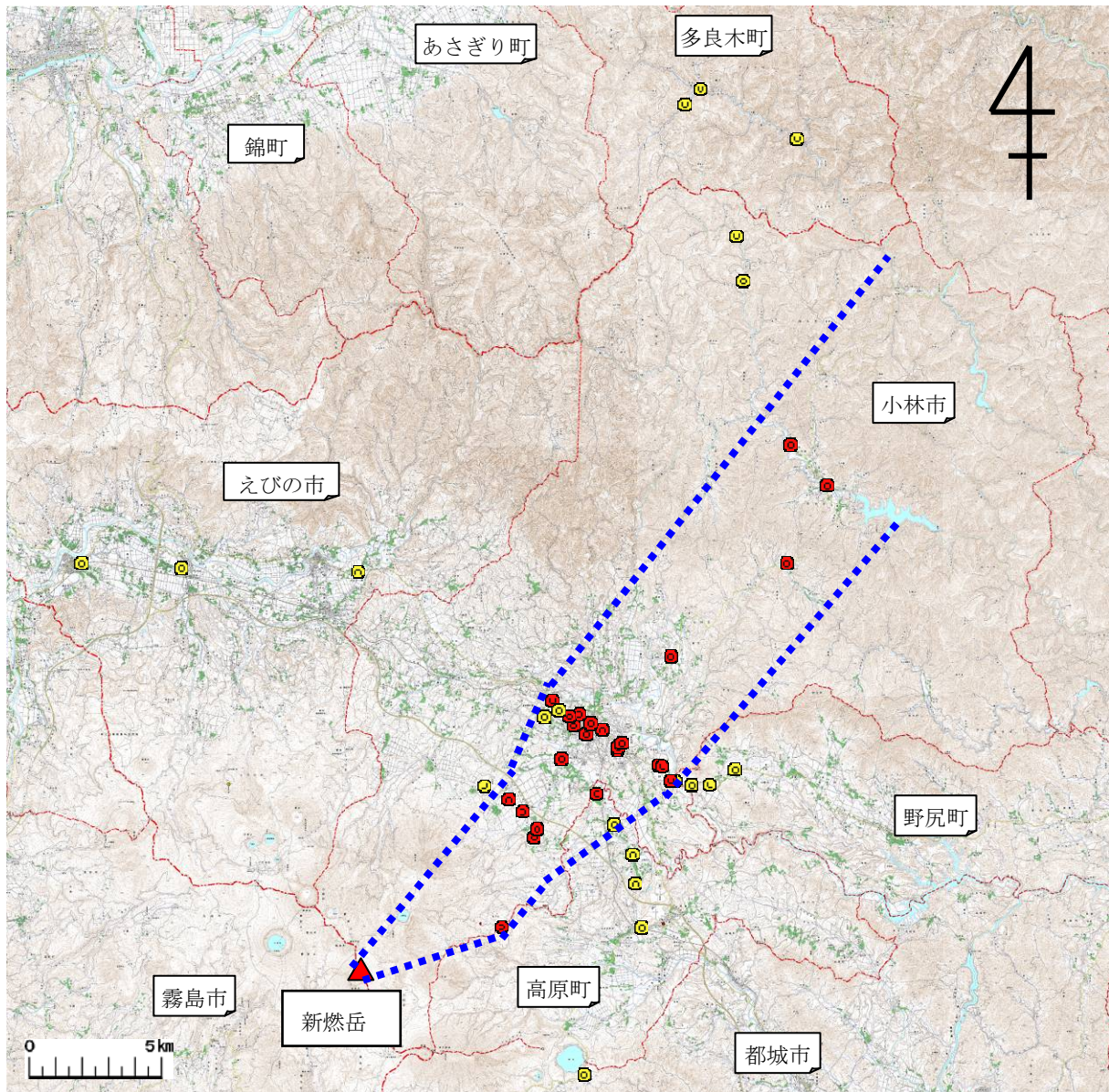


図2 霧島山（新燃岳）噴石の飛散状況

赤円内に見られる白色のものが噴石でおおむね黄色枠内あたりに飛散しています。噴石は火口縁周辺及び割れ目付近に多く見られるため、火口内および割れ目から噴出したと考えられます。



- 現地降灰調査により降灰を観測した、又は聞き取り調査により確認した地点
- 降灰調査では降灰を認められなかった地点
- ■ ■ 水色のラインは降灰があったと推定される領域
参考：22日17時頃の風向は1500m上空で南西の風12m/s

図3 霧島山（新燃岳） 降灰の状況

・新燃岳から北東側で降灰を確認しました。